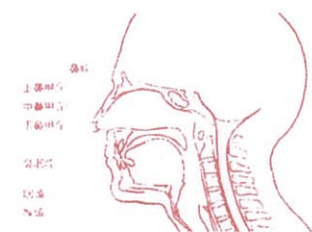


日本人の4人に1人は花粉症

花粉症は50年前にはほとんどみられませんでした。今や日本人の25%が花粉症に罹っているとされています。花粉症はアレルギー疾患のひとつで、花粉に何度も体が暴露されることで花粉に含まれるタンパク質に抗体を作ることになり発症します。最近では子どもにも増えています。主な症状は、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみです。さらに、涙、だるさ、微熱、頭痛、のどの痒みを伴うことがあります。症状や程度が一人ひとり異なるのも特徴です。花粉症が増えてきた背景には、戦後にスギが多く植えられたことに加え、大気汚染、食物や住宅の変化など、様々な生活環境の影響が指摘されています。さらに、細菌やウイルスなどへの感染の減少に伴い、ヒトの免疫が細菌や寄生虫などから体に全く害のない花粉などに向かうように変化してきたことも、アレルギー増加に関わってきているともいわれています。また、アレルギーについては花粉症に加えて別のアレルギー疾患があったり、喘息やアトピー性皮膚炎に罹っている人もいますなど、花粉症と単純にひとくくりにできないことが近年の特徴といえます。



鼻の穴が二つある理由をご存じ？



鼻のなかの孔を鼻腔^{びくう}といい、鼻腔、鼻咽腔^{びいんくう いんとう}、咽喉^{こうとう}をあわせて上気道と呼びます。鼻の役目は、加温、加湿、防塵、臭覚です。そのうち吸気中の塵(異物)を取り除く防塵のために、吸気を狭い鼻腔を通して異物を落として粘膜に付着させます。鼻の穴が二つあるのは片方がつまった時のためではなく、吸気中の塵をより多く取り除けるよう表面積を広くするためです。鼻腔の表面は粘膜に覆われ、かぜや花粉症などで炎症が起きて粘膜が腫れるとすぐにつまる構造になっています。鼻がつまるのは異物をなかに入れられないためであり、鼻から入ってくる細菌やウイルスなどから体を守っているのです。



顔がほてるのはなぜ？

「ほてる」とは、「火照る」「熱る」とも書き、文字通り熱を帯びて顔やからだが熱くなる状態です。緊張した時や怒った時に顔が赤くなること(上気)がありますが、本人はそのきっかけを理解しています。一方、更年期のほてりはホットフラッシュとも呼ばれるように、何の予感もなく無意識に起こってしまいます。大切な面談をするといった時に急激にほてりが生じ、気にするほどに症状が強くなることもあります。周囲から顔の赤みを指摘される、予想外の状況でほてってしまうなどの経験が重なると自信がなくなり、人と会うのも避けるようにもなります。更年期症状に共通していえることですが、発症には個人差があるので、こんな経験をしない人もいます。

全国の処方せん受付中

東北大学病院 国立仙台病院 市立病院
東北公済病院 労災病院 開業医院など

